

科目区分：人間科学科目

授業科目名	人間と環境（環境の科学）					学期	曜日	校時
英語名	Human and Environment (Environmental Science)							
担当 教官	糸山 景大 星野 由雅 富山 哲之	単位数	2単位	必修 選択	選択	前期	火曜日	校時
授業のねらい・内容・方法								
<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題の重要さを、廃棄物、放射性廃棄物の処理問題を通じて学ぶ。 ・廃棄物処理、リサイクルの現状と問題点、放射性廃棄物処理の現状と問題点を講述し、人類にとっての環境問題の意味を考えていく。授業は講義形式で進める。 								
テキスト、教材等								
授業計画にそったプリント資料等で行う。 参考書「人間・環境・地球」(北野・及川 共著、共立出版)								
対象学生	成績評価の方法				教官研究室			
全学部	定期試験、レポート、小テスト、出欠の状況等を考慮して行う。一教官でも欠点ができれば不可。							
授業計画								
<p>1～4回（糸山 景大） 環境化学Aの概要を述べる。次に1～4回の主要テーマである廃棄物処理を中心とした環境問題を取扱う。環境問題が人類の中心課題となってきた歴史的・社会的、あるいは科学的・技術的な背景を講義していく。</p> <p>特に、日本における技術論を中心に、これまでの技術論を紹介するとともに、今後の技術論として生態学的視点を持つ循環型の新しい技術論を展開する。また、文化論・文明論にも言及する。</p> <p>長崎市を中心としたゴミ問題・廃棄物処理問題の現状、問題点を指摘し、循環型の技術論に沿って素材・材料の循環性（リサイクル）とエネルギーの循環の必要性、紙、空き缶、空き瓶、プラスチック類等のリサイクルの現状と問題点を講義する。</p> <p>5～8回（星野 由雅） 化学物質と安全性について講義する。我々は、日々の生活の中で様々な化学物質に曝されている。一方、我々は、生産活動や消費活動において様々な化学物質を排出する立場でもある。これら化学物質の人への影響および環境（生態系）への影響評価法を紹介する。また、大気汚染に関わる環境基準および水質汚濁に関わる環境基準と日本国内の現状とを関連付けて講義する。さらに、化学物質の法的規制について日本、米国、およびEUの場合を例に取れ上げ解説する。</p> <p>9～12回（富山 哲之） エネルギーと環境について講義する。エネルギー変換、エネルギー資源、エネルギーと生体系のかかわりあい等を取り上げる。特に、エネルギー消費によって生じる環境問題では、化石燃料消費による環境汚染または原子力発電による放射能、放射性廃棄物の現状と問題点について解説する。</p> <p>「環境教育」の立場から環境問題を取り上げ、講義する。</p>								